

# 価値創造のあゆみ

鹿島は1840年の創業以来、鉄道やダムをはじめとする社会資本の整備や、オフィス、商業施設、住宅など人々の生活や活動の場を創造し、建設事業を通じて安全・安心で快適な社会の構築に貢献し続けてきました。

幕末、明治、大正、昭和、平成、令和と時代が移り変わるなかで「洋館の鹿島」「鉄道の鹿島」「ダム of 鹿島」「超高層の鹿島」などと称されてきたのは、時代の要請に応えた事業を展開し、常に時代を先取りする「進取の精神」が脈々と受け継がれ、技術で未来に挑戦を続けてきた証です。

## 100年をつくる会社、鹿島

私たちは、先達が築いてきた技術と品質の優れた伝統と、未来を志向して果敢に挑戦してきた歴史を受け継ぎ、新たな時代を切り開いていきます。

### 1840

#### 創業、そして 洋館の鹿島へ

鹿島の歴史は、1840年、創業者 鹿島岩吉が大工として江戸中橋正木町（現在の東京都中央区京橋）に店を構えたことに始まります。大名屋敷の御出入りとなるまでに成功した岩吉は、日米修好通商条約により開港場として建設ラッシュに沸く横浜に進出。横浜初の外国商館・英一番館を建設し、以来、その仕事ぶりは「洋館の鹿島」として知れ渡っていきました。その後、東京京橋木挽町に土族らの商社「蓬萊社」を建設するなど各地に新しい建築を手がけ、今日に至る発展の基礎を築きました。



英一番館が描かれた錦絵「横浜英吉利西商館繁栄図」(部分、一蕙斎(落合)芳幾筆、1871年)

### 1880

#### 鉄道の鹿島 ダムの鹿島

事業を引き継いだ二代目 鹿島岩蔵は、1880年に鹿島組を創立し、鉄道請負業に乗り出しました。以降、数多くの鉄道を敷設し「鉄道の鹿島」として世紀の難工事といわれた丹那トンネルを完成させるなど、その名声を高めていきます。さらに、急増する電力需要に対し各地でダム建設が開始されるようになると、鹿島は日本初のコンクリートダムである大峯ダムを完成させ、その後も数多くのダムを施工し「ダムの鹿島」として、日本の国土開発に大きく貢献しました。



日本初のコンクリート高堰堤・大峯ダム(1924年、京都府)。1964年の天ヶ瀬ダム建設で水没

### 1960

#### 超高層への挑戦

1968年には日本初の超高層ビル「霞が関ビルディング」を完成させ「超高層の鹿島」として日本における超高層の建設技術を確立し、日本各地に超高層ビルを建設していきます。この技術開発の核となったのが、1949年に建設業界としてはじめて設立した技術研究所です。1980年代には世界に先駆けて制震装置などの技術開発を推進し、超高層ビルの安全性を求める声に応えています。今日に至るまで、当社の技術開発の中心を担い、豊かで安全な国土の建設と社会発展に寄与し続けています。



竣工当時の霞が関ビルディング(1968年)

# 1980

## 海外事業への積極展開

鹿島の海外事業は1899年に着工した鉄道建設に始まります。以降、東南アジア諸国でインフラ施設を手がけていきました。1960年代には米国ロサンゼルス日本人街、リトルトーキョーの再開発に取り組んだことを契機に海外事業は躍進します。1980年代には、1986年米国にKUSA (カジマ・ユー・エス・エー)、1987年 英国ロンドンにKE (カジマ・ヨーロッパ)、1988年 シンガポールにKOA (カジマ・オーバーシーズ・アジア 現KAP) を設立し3極体制を確立。現在は2015年に設立したKA (カジマ・オーストラリア) を加え、各地域において建築・開発事業を積極的に展開しています。



再生された全米一の日本人街、リトルトーキョー

# 2000

## 開発事業の雄飛

大規模複合開発に本格参入するきっかけとなったのは、開発コンペに入賞した志木ニュータウン (埼玉県) です。用地買収・土地造成・配置計画から設計・施工・分譲販売に至るまで、その総合力が試される国内最大級のプロジェクトでした。2000年代には秋葉原開発プロジェクトや虎ノ門四丁目プロジェクトなど都市再生プロジェクトに参入。その後も設計・施工能力などを併せ持つゼネコンデベロッパーとして、「技術力」「総合力」を活かし、複合的な都市開発を実現しています。



東京の中枢・虎ノ門の丘に建つ23階建ての賃貸オフィスと41階建ての分譲レジデンスからなる虎ノ門タワーズ (2006年)

# 2020

## 現在の鹿島

鹿島はこれからも「進取の精神」を貫き、未来を見据えた取組みを進めていきます。



加速する土木現場の工場化 P22、42



「鹿島スマート生産」の展開 P22、44



グループの総合力を活かした国内外の開発事業 P 46、48